

奈良県代協

トータルプランナー
贈呈式と賀詞交換会

奈良県代協(服部典正会長)は、1月18日午後2時



橿原神宮内での贈呈式

30分から、コロナ禍により開催を2年間中止していた「損害保険トータルプランナー認定者記念贈呈式」には、2019年度認定者2名、2020年度認定者3名、2021年度認定者4名の計9名が出席。同会員、各保険会社支店長、支社長等、総勢29名が同席した。認定者には「大学課程認定証」を収容できる額縁、「カード型認定証用ネックストラップ」を服部会長、糸田博文副会長・教育委員長が認定者全員に手渡した。

「Z世代社員に聞く! これからの保険代理業」テーマに



交流会の様子

求める改善点は「デジタルの一層の活用」

HP設定や顧客とのデジタル接点の構築

今回で12回目の開催となる同支部恒例の保険会社担当者との交流会に、東京海上日動(以下TND)の社員は課長と回答。理店については「私にとって最も身近な管理職であり、マネジメントにより組織をけん引する存在だからまずは課長を目指したい」と話した。その後「最終的には社長」と答へ、会場を盛り上げた。印象の変化について「将来目指したい役職」「良い代理店事務所とは」「代理店に対して変革してもらいたいこと」といった質問に対して、8名がさくばらんに回答した。保険会社に入社して業務にあたった際の印象について、あいおいニッセイ同和損保(以下AD)と損保ジャパン(以下SJ)の社員からは「保険商品の種類が多いこと」と「どった」といった回答が出された。SJの社員は「その時々流行やトレンドをどの保険会社よりも早く取り入れて商品化することにかけている」と話した。ADの社員は「代理店訪問時などに社員の方々も挨拶をしっかりと返してくれる代理店。整理整頓がしっかりできていて代理店」と話した。TNDの社員は「賞状や記念の楯がきちんと掲示されている代理店。優待をいかに受賞したという結果ではなく、(きちんと掲示している)社員全員が受賞を誇りに思



清水支部長

東京代協城北支部

保険会社担当者との交流会開く

「Z世代社員に聞く! これからの保険代理業」をテーマに、保険業界に対する若手社員の考えなどについて意見を交わした。司会進行は同支部の大関貴雅氏と廣田隆之氏が務めた。交流会の様子は、本報のウェブサイトに掲載されている。問い合わせは、東京代協城北支部(TEL:0476-22-1111)まで。